

2015 年度 ケンブリッジ大学海外研修特集

4 月下旬に行われた選考会を経て、今年度の海外研修派遣メンバーが正式に決定しました。2 年生から 4 名、3 年生から 4 名の合計 8 名で、現在夏の研修に向けて実験やプレゼンテーションの練習を行っているそうです。今年度第一号の茶畑 SR times では、海外研修特集ということで、

- ① ケンブリッジ市の紹介
 - ② 派遣メンバーの方々の抱負、研究内容の簡単な紹介
- 以上 2 つの内容について皆さんにお伝えしたいと思います。

① ケンブリッジ市の紹介

ケンブリッジ市は、イングランド東部、ケンブリッジシャーというカウンティ(イギリスにおける州のような区分)の州都です。ケンブリッジ大学の所在地であることから、大学都市として有名ですが、シリコン・フェンと呼ばれるイギリスにおけるハイテク産業の中心地としての一面もあります。



ケンブリッジ、という名前は、ケム川にかかるブリッジ(橋)に由来しています。美しい自然や、歴史ある建造物群が立ち並ぶ街並みなど、魅力的な景観に心惹かれる人は多く、観光スポットとしても人気です。

そのような市に位置するケンブリッジ大学は、世界でトップレベルとの呼び声高い、世界有数の名門大学です。今日までのノーベル賞受賞者は 81 名と、世界の大学・研修機関の中で最多となっており、かの有名なニュートン、ダーウィンを始めとする、偉人も数多く輩出しています。

来年も海外研修への参加のチャンスがある方々は、来年度の挑戦を検討してみたいか。



② 抱負、研究内容

3 年 土本 菜々恵さん

昨年度の研修に私の友人や先輩が参加しており、その様子を見て私も参加したいと思ったのがきっかけでした。私は物理部や化学部の人間ではありませんが、今回参加できることをとてもうれしく思っています。せっかくのこの機会を無駄にすることのないよう、また少しでも多くのことを得られるよう、楽しんでいます。

3 年 栗木 理志さん

私は宇宙線という分野、特に、宇宙線の来る方角と量との関係性について研究してきました。研究を行っていくうえで予想を超えた結果が出てきました。ですので、イギリスに行った折にはその結果について現地の研究者の方の意見をお聞きしたいです。また、異国の文化に全身で触れたいと思っています。

3年 伊賀 雄太郎さん

私は、太陽黒点数と宇宙線量の相関関係について研究してきました。今回の研修は活動の集大成を飾るのにこれ以上ない場なので、今までの経験全てを活かし、様々なことに挑戦できたらと思います。受験期の夏休みを使うことに対して思うところがないわけではありませんが、行ってよかったと胸を張って言うため、五感(味覚を除く)で感じるすべてを吸収し、思う存分楽しんできたいです。

3年 九里 優樹さん

私達はカフェインについての研究をしています。カフェインというとコーヒーを思い浮かべる人も多いと思いますが、茶、チョコレート、薬等にも含まれる身近な物質です。ケンブリッジ大学は世界有数の名門大学ですので、ただ研究発表や講義を受けるだけでなく、大学にいる人々がどのようなことを考え、何を思っているのかを学びたいと思っています。

2年 大槻 陸さん

私たちの班は様々な飲料や薬品などから、カフェインの抽出・定量、カフェインの抗菌作用について研究しております。有名な大学で発表したり意見を聞けたりする機会は少ないので、せっかくのチャンスを活かせるよう精いっぱい頑張っていきたいと思っています。

2年 佐藤 恵里さん

私達は過マンガン酸カリウムとシュウ酸ナトリウムの酸化還元反応における、金属イオンの触媒効果についてプレゼンテーションを行います。今回、このような形で自分たちの研究を海外の第一線で活躍する研究者の方々に発信できる機会を与えられたのは幸運なことです。この好機を最大限活かせるよう努めます。

2年 下澤 七海さん

この仙台一高がSSHとなってから4年目となり、海外研修の企画は今回で2回目となります。SSHであるというおかげで我々は貴重なチャンスを頂きました。だからこそ、自分のためだけではなく、学校のため、SSHの取り組みとして成功だと思われるような研修にしたいと考えています。

2年 山田 玲花さん

私はイギリスで化学・物理だけでなく文化や歴史についても体験し吸収することが目標です。バッキンガム宮殿が見られたらいいなあと思っています。経由地シャルル・ド・ゴールも名前の由来など気になります。海外研修に参加しないみなさんにも絶対に還元するため、有意義な研修にしますのでよろしくお願い致します。

研修は8月3日～9日の7日間です。

今回の研修が派遣メンバーの皆さんにとって実りあるものになるようお祈りしております。

編集委員一同

